



九条みなみそうま

「みなみそうま九条の会」会報 No.431
(旧・はらまち九条の会)

福島県南相馬市の「九条の会」 2026(令和8)年 2月25日(水)発行

●『私の戦争体験』は被害の体験ですが、実は日本が明治以来、朝鮮半島や中国、アジアの国々を侵略し“戦争による加害”の大罪を犯したことも忘れてはいけないことです。80年前の戦後は、戦争や加害の反省からスタートし、そこから戦争放棄の日本国憲法が生まれました。



《本会設立20周年記念・終戦から80年》

『私の戦争体験』

『-80年前、南相馬市でも戦争がありました』を出版

- 昨年12月7日付で、本会の設立20周年記念事業として、『私の戦争体験』を出版しました。20年間の会報に掲載した戦争体験52名分を集録したものです。体験者や家族には感謝を込めて贈呈し、また多くの方々、特に戦争を知らない若い世代に読んでいただくため、各図書館や南相馬市内の学校図書館にも現在寄贈を進めています。
- 『私の戦争体験』はA4判、120ページ、1冊千円。南相馬市原町区三島町のおうち書店さん(TEL0244-22-4403)でも取り扱っていただいています。

『私の戦争体験』のおもな内容① Pは本のページ、◆は男性◇は女性

- ◆P1、昭和20年夏ごろ、3歳の私は満州国で迷子になり露天商のおじさんの家で3晩ほど過ごし、その間親たちは必死になって探し回り、ようやく再会できました。
- ◇P5、24歳の私は昭和20年4月から原町高等女学校(現在の原町一中)の教員として勤務。日直の8月10日米軍グラマン機から校庭に爆弾12発が投下され大きな穴に地下水が湧き出していた。その夜炎々と燃える原町紡織工場を見ながら石神の父の実家に避難しました。
- ◆P7、北朝鮮に出征しソ連軍と戦い、シベリアに2年間抑留され九死に一生を得て生還。
- ◆P17、国見団地にあった原町紡織工場が空襲され、真っ黒な煙とまっ赤な炎をあげて燃え上がり、小学3年の私は無性に淋しくなり涙ぐみ、その宵に石神の信田沢に避難しました。
- ◆P19、家が貧しく相馬農蚕学校に進学できなかったが、軍属として原町飛行場に勤めた。
- ◇P31、原町高等女学校に入学しても授業はなく、農家の田植えや稲刈り、塩作りなどの毎日でした。私たち3年生120名は昭和19年10月に郡山市の日東紡績富久山工場に動員され、半年後の20年4月12日の郡山空襲に遭いますが、奇跡的に犠牲者はゼロでした。
- ◆P36、私は技術者をめざし憧れの相馬工業学校に入学するが、工業学校といっても設備も専門の先生もおらず、戦争で工場に動員させるために商業を工業学校に転換させたのです。
- ◇P41、原町飛行場では特攻隊員が養成されていましたが、死を覚悟した隊員と交流し手紙のやりとりを行い、大切な手紙をまとめて『いのち』という本を出版しました。
- ◆P43、私は原ノ町駅に近い家の防空壕の中で空襲を体験。無線塔、原ノ町駅、原町飛行場、原紡、帝金工場、原町小学校の爆弾攻撃の様子も目撃しました。戦後は市内の戦争遺跡の写真撮影<表紙>やその案内を行い「戦争は絶対二度とやるべきでない」と話しています。
- ◆P51、兵役志願し山本五十六が乗船した戦艦「長門」の整備要員だった。その「長門」は敗戦後の昭和21年7月ピキ二環礁での原爆実験の標的艦として撃沈された。(裏面に続く)

『私の戦争体験』のおもな内容② Pは本のページ、◆は男性◇は女性

- ◇P47、日本赤十字の従軍看護婦として召集令状が届き、嬉しくて家の中を飛び回りました。胡北丸という病院船で中国の大連へ。さらに秦皇島、徐州、南京、上海、マニラ、ラバウルなどへ行きましたが、昭和19年に病気で原町に帰る。戦争は絶対してはいけない。
- ◆P53、父は仙台から戦地に向う常磐線の列車が原町北原の我が家付近を通過する時、マッチ箱に「家族を頼む」と書いた紙切れを入れて、窓から田んぼに投げ捨てていったそうです。父は昭和20年4月29日フィリピンのミンダナオ島で37歳で戦死。私は2歳でした。
- ◆P55、私は横須賀の海軍で昭和20年8月「長崎の海軍に秘密兵器を受取りに行け」という軍の命令で4人で出発。8月7日広島の手前で列車は止まり、投下翌日の広島の町中を徒歩で通過して入市被爆します。広島の西からまた列車に乗り、9日朝長崎に到着、駅前の旅館で食事を待っていた午前11時2分に今度は直接被爆し気を失う。私は軍人だったので救出され、諫早の病院で顔の手術をうけ顔は変形しました。相馬に復員しますが、所謂私は「二重被爆者」です。
- ◆P59、私は小学5年の8月9日長崎で被爆。30歳頃から体調がおかしくなる。どうせ被爆者だからと福島原発で働こうとしたが断られた。毎年8月、空に原爆の幻覚を見ます。
- ◇P95、4歳の私は家族と昭和13年に満州国の北部に開拓団として入植します。穏やかに暮らしていたが、昭和20年7月父は召集され、8月にはソ連兵が侵入し、11歳で命がけの悲惨な逃避行を体験し多くの凄惨な地獄を次々と見てきました。ようやく相馬市に帰ることができ、父も昭和25年に復員できたのも奇跡でした。国策に躍らされ満州に渡るが、日本政府、関東軍、開拓団長に身捨てられ夢破れ、私は戦争を恨み人間不信にもなりました。(2011年1月に本会が「中国からの引き揚げ・漫画展」を開催したとき、78歳の女性が原稿用紙70枚に綴られたこの体験記録を持参されました。事務局長だった私(山崎)は原発事故で川崎市に避難中でしたが、なんとか1年後に会報の6ページにまとめました。今回『私の戦争体験』を家族宛てに郵送しましたが、宛先不明で戻ってきました。52名の体験者で最も気になっている方です。)

『私の戦争体験』を読んで

□戦争体験集をありがとうございます。戦争と平和を考え、戦争の愚かさを若い世代に伝える！本当に大事ですね。みなみそうま九条の会に感謝です。(原町区・女性)

□父宛てに貴重な体験集を送っていただきありがとうございます。しかし2年前に父は永眠しましたが、父も懐かしいお便りにきつと喜んでいることと存じます。(原町区・男性)

□貴会の設立20周年に何と相応しい企画でしょうか。母の仏前に供え、私もじっくりと読ませていただきました。皆さまの強烈な記憶がそれぞれの方の文章で迫ってまいります。こんなに幾人もの方々の戦争体験をまとめて読んだのは初めてでございます。(仙台市・女性)

□95歳の老人で戦争中の体験を話したことをすっかり忘れていました。突然、立派な御本が届いて、自分が載っていて大変驚きましたが、嬉しく、最高の幸せです。(原町区・女性)

□『私の戦争体験』をお送りいただき、早速母の文章を読みました。教員だった若い頃の母を思い浮かべ、中学校音楽教員の娘と重ねてしまいました。(神奈川県・男性)

□大内書店で求めましたが、すごい資料です。現在担任している小学6年の授業でこの体験を読んで聞かせます。(鹿島区・女性)

□圧巻です。少しずつ読んでます。高市の好戦的な姿は空しく思います。(日立市・女性)

□私は医療生協組合で社会保障や平和活動に参加しています。戦争体験のない世代として、この冊子を語りつぎの場やフィールドワークで役立てたいと思います。(郡山市・男性)

□体験集をありがとうございました。日頃新聞を読むひまもない息子が、(亡き)父の文章をしみじみと読み、「中々いい事書いている」と一言言いました。この言葉を御礼の言葉として送らせていただきます。(原町区・女性)



○『私の戦争体験』は、昨年12月30日『福島民報』、今年1月7日『福島民友』の全県版で報道されたおかげか、おうち書店さんで求められる方も多くなりました。○印刷経費を上回る収益があり、会の会計に負担をかけないで済みました。○国立国会・福島県立・南相馬市立図書館などへの寄贈も行っています。○残部もわずかになり、会員の皆様のご協力やご支援に感謝申し上げます。